

平成 29 年度学部学位記授与式式辞

学長 三島良直

式辞

本日、ご来賓ならびに列席の本学役職員、部局長とともに大岡山キャンパスにおいて、平成 29 年度学部学位記授与式を挙行できますことは、本学全構成員の大きな喜びでございます。晴れて学士の学位を授与される皆さん、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。海外からの留学生の皆さんは日本での勉強と研究を無事終えられ、ほっとなさっておられると思います。そして、本日もご列席のこれまで学業を支えておいでになり、この日を迎えられましたご家族の皆様には深く敬意を表したく存じます。

学部を卒業し、就職して社会人となられる皆さん、大学院に進学する皆さんはそれぞれに夢と希望を持って将来をみつめていることと思います。学生生活を終え、社会人となる皆さんは日本一の理工系総合大学であり、そしてこの度 4 校の旧帝大と並んで指定国立大学法人の資格が認められた東京工業大学の卒業生としての誇りを持ち、そして本学で培った専門基礎力をベースにして、与えられた業務に果敢に取り組むとともに、柔軟な思考力をもって様々な場面で社会貢献を果たすべく、気概を持って邁進してください。

ここにおられる多くの皆さんはこれから大学院へ進学することでしょう。これまでに培った専門基礎力をもとにそれぞれの分野での専門力を高め、2 年後、あるいは 5 年後には社会人として我が国の、そして世界の人間社会の持続可能な発展に向けて、新しい社会を切り拓く役割を果たす気概を身につけた人材に育つことを期待しています。これまでの延長として学生生活を続けるのではなく、将来自分を最も活かせる活躍場所と役割に対する夢を意識しながら充実した大学院生活を送ってほしいと願っています。

さて、2 年半前の 2015 年 9 月の国連サミットにおいて持続可能な世界を実現するための 17 の目標とそれぞれにより具体的な取り組みが合計 169 採択されました。これらは Sustainable Development Goals、略して SDGs と称されて国連加盟 193 か国が 2016 年～2030 年の 15 年間で達成するべく努力することになったのです。SDGs における 17 の目標を見ると確かに人間社会が今抱えている問題が見事に整理されています。そのいくつかを挙げると、貧困をなくそう、飢餓をなくそう、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、男女平等の実

現、安全な水と清潔なトイレを世界中に、などであり、このような問題を解決するためには世界の国々が協働して取り組み、そして特に先進国がリーダーシップを発揮しなければならないでしょう。我が国においては2016年に総理大臣が内閣に「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置し、17の目標を新たに8つの優先課題に分類して積極的な活動により国際貢献するために我が国としての「SDGsアクションプラン2018」を昨年末に決定しています。それらは、①あらゆる人々の活躍の推進、②健康と長寿の達成、③成長市場の創出、地域活性化と科学技術イノベーション、④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備、⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策と循環型社会、⑥生物多様性、森林や海洋等の環境の保全、⑦平和と安全・安心社会の実現、⑧SDGs実施推進の体制と手段から構成されています。そしてこれら8つのアクションプランを概観するとき、科学技術が貢献すべき問題が多いことに気が付くと思います。すなわち将来科学技術に携わる皆さんは地球規模で現代社会が抱える問題に対して様々な形で参画する志と気概を持たねばなりません。社会に船出する皆さん、大学院へ進学する皆さんのすべてがそれぞれの立場で目の前の課題に真摯に取り組みながらも、このような国際活動の動きを意識し、科学技術と社会の繋がりについて自分の考えを持つことを心掛けてほしいと思います。

今日東京工業大学から羽ばたく皆さんは科学技術の様々な分野において社会からの期待に応え、信頼される人間となるために、自信を持って何事にも積極的に挑戦してください。教養を含めた幅広い知識と、柔軟な考え方、グループで仕事出来る協調性等々、幅広い能力を付けるための努力を惜しまず、東工大の卒業生が世界のトップレベルの若者たちと力を合わせて新たな知を創出し、持続可能なより良い社会を作り、守り、そして世界の人々が平和で幸福に暮らせる環境を作り出すことに貢献してくれることを信じています。

最後に、皆さんの明るい未来を心から祈って式辞といたします。

平成30年3月26日

東京工業大学長 三島良直